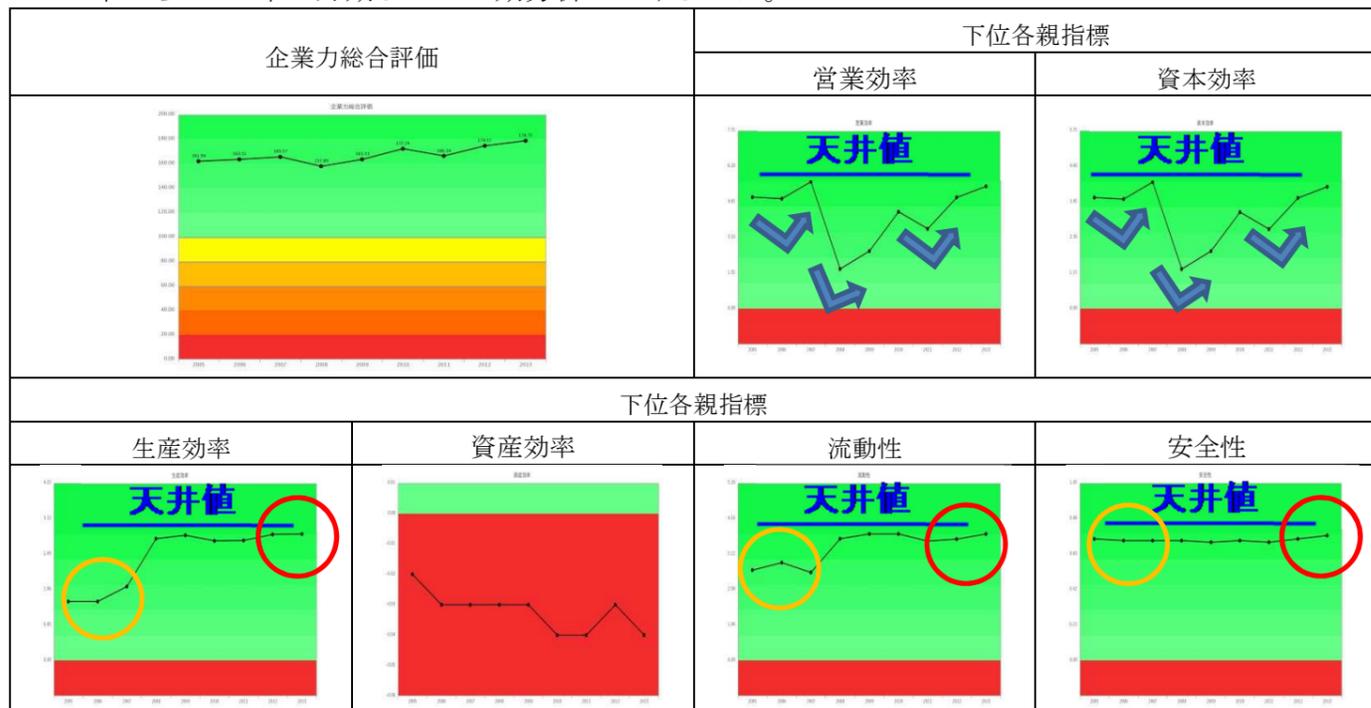


今回は、株式会社自重堂を分析してみました。広島県は、古くから縫製業、撚糸業、織物業など繊維産業が盛んで、全国有数の産地を形成しています。全国シェアのおおよそ 50% を占めるワーキングウェアをはじめ婦人服・子供服・ジーンズ・スポーツそしてカジュアルウェアまで、アパレルメーカーが集積した総合産地です。

株式会社自重堂は、創業大正 13 年 9 月、設立昭和 35 年 7 月の老舗企業です。時代の感性を先取りする優れた企画力、デザイン力、徹底した納品管理など、人・技術・情報のバランスがとれた盤石の体制が、ユニフォームのトップメーカーとして「今日の自重堂」を支えています。

2005 年から 2013 年 6 月期までの 9 期分析してみました。



企業力総合評価、161.94→163.51→165.57→157.89→163.53→172.24→166.34→174.57→178.75 と推移しています。コツコツとポイントを上げていく姿は、自重堂という名に相応しいです。営業効率（儲かるか）資本効率（資本の利用度）は青信号領域を推移しています。（株式会社自重堂の凄いところは下がった期の翌期、必ず改善している点です。9 期中 3 期営業効率を下げているのですが、3 回とも翌期改善です。儲からなくなったことを正確に認識し、着実に改善する実行力がある会社です。生産効率（人の利用度）は、2008 年急改善しています。767 人いた従業員が 450 人に減っています。売上高が、23,005,394 千円から 22,149,053 千円と 3.72% しか減っていないのに従業員が 41.33% も減っていますので、生産効率が改善する筈です。2008 年 5 月、子会社の株式会社川口ソーイングを解散しています。製造子会社を解散すれば、従業員は減りますが、売上は減りませんね。資産効率（資産の利用度）は、赤信号領域にどっぷり浸かっています。流動性（短期資金繰り）は、青信号領域で改善トレンドです。安全性（長期資金繰り）は、青信号領域の天井値です。自己資本比率は 78.81% と素晴らしい数値です。

それにしても「自重堂」という社名、昔からの経営者の思いが感じられる凄い名前ですね。一度聞いたらずれのないのではないのでしょうか。分析結果も「名は体を表す」状態でした。

株式会社自重堂は、配当利回り（配当金額÷株価）が良い会社で有名です。2014 年 5 月 13 日、配当予想 55 円が出た時の株価が 1000 円前後ですから、金利にして 5.5% の高利回りということになります。ですから、配当権利の確定する決算期末（6 月末）に向けて株価が上がっていきます。5 月末には 1200 円前後になりました。株価と営業効率のグラフを重ねてみました。営業効率の動きと大まかにリンクしていますが、近年営業効率が良い割に株安の状況にあるようです。



他の指標を勘案してみましょう。左の SPLENDID21 の親指標をご覧ください。2005～2007 年の前半期（○）と 2012～2013 年の後半期（○）を比べてみましょう。安全性はほぼ同じレベルですが、生産効率、流動性は前半期より後半期の方が圧倒的に良くなっています。



企業力総合評価のグラフと重ねてみました。更にかい離が大きくなりました。

まとめ

企業力は、儲ける力、資本利用度、人利用度、資産活用度、短期資金繰り、長期資金繰りを統合して測定されます。企業力総合評価と株価とのかい離をみれば、実力の割に株価が低いことは明白です。今後、IR や広報に力を注ぐ必要はありそうですが、相当に優秀な会社と言えます。

編集後記 強い人の見せる弱さ・・・母性本能をくすぐられますわ！ (*^_^*) 文責 JY